

クローズアップ輸送業界

第29回 業績が良い運送会社の特長とは



小山 雅敬（こやま まさのり）

大阪大学卒。都市銀行、シンクタンク、損害保険会社勤務後、株式会社コヤマ経営設立。運送業コンサル歴30年以上、指導企業数3千社超、講演・執筆多数。著書に『運送業経営相談室（日本法令）』『実例に基づくトラック運送業の賃金制度改革（日本法令）』。資格 中小企業診断士、日本物流学会正会員など

安定した業績を継続している会社の共通点

今年6月に公布されたトラック新法により、利用運送における「二次請け以降の再委託制限」が法律上の規制対象になりました。現在、この規制を遵守するために多くの元請事業者が物流体制の再構築を検討中です。従来3次請け以降の仕事を担ってきた運送会社は、今後2次請けまでに格上げされるか、または新規荷主企業の仕事を開拓する必要に迫られてくるでしょう。

これからの運送会社は勝ち残りをかけて社内改革を行い、自社の魅力を最大限に引き上げていく必要があります。現在、荷主企業に選ばれ、安定した業績を継続中の中小運送会社に共通した特長を以下に列記します。今後の取り組みの参考にしてみてください。

業績が良い会社によく見られる特長

- 1 経営者の想いが社内に浸透している**
→ 事務所内に経営理念・社是・社訓・行動指針・安全ポスターなどを掲げている。
- 2 風通しが良く働きやすさが伝わってくる**
→ あいさつが活発で事務所内の雰囲気明るく、社員教育が徹底されていることがよく分かる。
- 3 経営者が社員教育を重視している**
→ 会社の最重要課題は、「社員の質的向上」と考えている。
- 4 パートナー企業に対して、言うべき時ははっきりと主張する**
→ 荷主企業、元請、同業者、仕入先などと良好な関係を築く努力をしながら、一方で取引条件交渉の場では安易に譲歩しない姿勢を取っている。
- 5 経営数値の把握に努めている**
→ 勘と経験に頼る経営ではなく、車両別の損益管理などを数字で客観的に判断している。
- 6 デジタル化の推進など、業務効率向上に関する意識が高い**
→ 常に現状を改善する方策を探しており、新しい技術の導入に躊躇しない。